

# 英語における Aspect の研究

北 村 正 司

( 1 )

近年我が国英文法界においても次第に論究されるようになった問題に aspect (相) 即ち動作の様態の問題がある。Aspect は元来スラヴ文法の用語で、スラヴ諸語においてはその動詞形式上の区別が行われている。例えばロシア語の動詞には不完了 (imperfective)、完了 (perfective) の別があり、それぞれ独立の語形変化を有する。不完了動詞は過程の持続的経過または反復を心に描きつついう時、あるいは原則的・普遍的にいう時に用いられ、完了動詞は過程の経過そのものではなく、過程のある限界点 (始めや終り) または結果に注意を向けつついう時に用いられる。なお反復過程でも、一括して、結果を念頭に置いていう時、または特定の過程で例示する時は完了動詞を用いることが出来る。

英語においても動作の様態の差異が何等かの手段で表示されていることは疑いの余地がない。しかし英語に aspect という文法範疇を認めるべきか否かということは大きな問題であつて論者の意見の分れるところである。この小論においては、文法諸家が現代英語に認めている aspect の実態を明かにし、aspect は英語において文法範疇として成立するか否かという問題について論述したいと思う。

英語に関する aspect の研究は多年欧米において行われ、その分類法には種々の行き方がある。次に主なるものを挙げてみよう。

## A. Kruisinga の分類.

(1) Imperfective aspect.

(2) Perfective aspect.

- (3) Frequentative aspect. (4) Inchoative aspect.  
 (5) Effective aspect. (Handbook 1922年版).

## B. Poutsma の分類.

- (1) Momentaneous aspect. (2) Durative aspect.  
 (3) Ingressive aspect. (4) Terminative aspect.  
 (5) Continuative aspect. (6) Iterative aspect.

(Poutsma は敘述を分類して momentaneous, durative, iterative の三種とし, durative を更に indefinitely durative, terminatively durative, continuatively durative の四種に細分し, これらと呼称の便宜上それぞれ (2) から (5) のように名付けた). (Grammar).

## C. Curme の分類.

- a. (1) Durative aspect. (2) Ingressive aspect.  
 (3) Effective aspect. (4) Terminate aspect.  
 (5) Iterative aspect. (2と3で point-action aspect を構成する)  
 (Syntax).
- b. (1) Terminate aspect (2) Progressive aspect.  
 (Accidence).
- c. (1) Terminate aspect. (2) Progressive aspect.  
 (3) Ingressive aspect. (4) Effective aspect.  
 (English Grammar).

## D. Deutschbein の分類.

- a. (1) Iterativum. (反復相) (2) Frequentativum. (反復相)  
 (3) Inchoativum. (起動相) (4) Intensivum. (強意相)  
 (5) Perfectivum. (完了相) (6) Imperfectivum. (未完了相)  
 (7) Kausativum. (使役相) (Syntax).
- b. (1) Aktionsarten (客観相) として
- A. Phasen-aktionsarten (段階 [phase] を示す客観的相)
- a. ingressive (起動相) b. progressive (進行相)

c. egressive (終動相)      d. result (結果相)

B. Aktionsarten der Reihe (動作の系列 [actions in sequence]  
を示す客観相)

a. single action(単一動作相) b. repeated action(反復動作相)  
c. frequent action (頻発動作相)

C. Intentional (意志相) (causative [使役相] を含む)

D. Intensive (強烈相) (たいてい Emphatic aspect と結合する)

(2) Aspect (主観的相) としては

A. Temporal (時を示すもの)

a. retrospective (回顧相)      b. introspective (低徊相)  
(imperfective)      c. prospective 待望相 (expecting)

B. Emphatic (強意相)

(太田, 「完了形・進行形」 p.94 による)

Aspect には上記のほか perfective aspect, resultative aspect, continuative aspect (この三種は「have+過去分詞」の形) などがある。

次に語法研究上特に重要な下記の五種について説明し, terminate aspect・progressive aspect その他についてはそれぞれ関係の項目において述べてみたいと思う。

1. Momentaneous (or Perfective) aspect. (瞬時相・完了相)
2. Durative (or Imperfective) aspect. (継続相・未完了相)
3. Iterative (or Frequentative) aspect. (反復相)
4. Ingressive (or Inchoative) aspect. (起動相)
5. Terminative (or Egressive) aspect. (終止相)

#### I. Momentaneous (or Perfective) aspect.

これは動作の終結・完了を表わす aspect であつて, 動作を全体として表現する。Deutschbein は完了相について次のように述べている。「完了相(瞬時相・過去相も同様)は完了または終末という見地から見た動作を表わすものであつて, 動作の開始がその終末と見られるか, あるいはただ一回の運動によ

つて完了したものと見られるような動作の相を表わすものである。」

この aspect は次のような方法で表現される。

a. 本来意味上 momentaneous の動詞で表わされる。例えば arrive, stop, strike, throw のような語である。

He will *arrive* at six o'clock and *leave* at nine.

b. 普通は durative の動詞でも context によつて瞬時相または起動相を表わすことがある。

I cannot *think* of the date.

c. 多くの動詞は単純時制に用いられると瞬時的になり、その進行形と対立し、その表わす動作は、その継続時間の長短に関係なく、完成されたものとして述べられる。

She *sang* and *danced*.

瞬時相・完了相に深い関係を持つているのは Curme の terminate aspect である。Terminate aspect は動作を完了した全体として、事実として表わすものであつて、普通は動詞の単純形で表示される。

He *shot* a duck.

He *wrote* a letter.

I *see* him coming up the road.

I *write* a letter every day.

Our clock *ticks* too loudly.

We *have* no scraps in our house.

He *will* go tomorrow.

単純形は terminate aspect を表わす力を持つているが、二つの全く異つた意味を所有する。即ち一般的な事実か特殊の事実を表わす。

Lead *links*. (一般的な事実)

I *see* him coming. (特殊の行為)

後者の文において行為が特殊のものであるということは situation から明らかである。しかし situation では判然としない場合には進行形 (terminate

aspect としての) を用いる。例えば *You are exaggerating!* なる文において進行形は孤立した特殊の行為を表わすために用いられている。この場合に *You exaggerate!* とはいえ常習的行為を示しているものと解されるかもしれない。また terminate aspect の進行形は表現を生々とさせ、主観や感情的色彩を陳述に加える。

A rich man who spends his money thoughtfully, *is serving* as nobly as anybody. (一般的事実についての意見の強調)

I believe he *was telling* me the truth. (個人的意見)

We *are trampling* over the hills and *writing* and *reading* and *having* a restful time. (生々とした表現)

She *is doing* fine work at school. (感情的色彩, この場合は賞讃)  
(進行形の terminate aspect については Curme の諸著のほか, 彼の門下 C. Rudolf Goedsche の論文 *The Terminate Aspect of the Expanded Form* 参照)

なお terminate aspect に対立するものは progressive aspect であつて、進行形を用い、動作を進行中のものとして表示する。

さて各種の相動詞が単純形に用いられる場合は一応 terminate aspect に含まれるわけで (Curme : *Some Characteristic Features of Aspect in English*), そのほか進行形がこの aspect を表わすのに用いられる場合もあり、従つてこの aspect は瞬時相・完了相よりも広汎な aspect であり、また各種の aspect のうち最大の範疇である。

## II Durative (or Imperfective) aspect.

これは動作を継続的な性質・状態のものとして表現する aspect である。

Deutschbein は未完了相について次のように述べている。「未完了相 (継続相, 進行相も同様) は動作の始め, 終りまたは完了ということは問題とせず, その持続・継続を表わす。例えば *ersteigen* (頂点に達する, 登りつめる) に対する *steigen* (登る, 登りつづける, 登つて行く) のようなのがそれである。近代英語では, この未完了相を表わすのに -ing による迂言法を用いる。

例えば *He is writing.* の如きである。」しかし Laan は上記の「動作の始めと終りを問題とせずに」という点に反対し、「なんとなれば英語の進行形が主として用いられるのは、進行中の動作という概念の中に、来るべき終末または変化という意識が働いている場合であると考えられるからである」と述べ、「しかしながら来るべき終末または変化は将来のものに過ぎないから、その意味では進行形を動詞の未完了相と呼んでも少しも差支ない筈である。」といっている。

この aspect は次のような方法で表現される。

a. 以上に引用されているように、この aspect を表わすには普通、進行形を用いる。このような場合の進行形を Curme が *progressive aspect* と呼んでいることは前に述べた。一方 *He kept working until he was tired out.* の如く単純形をもつて継続相を示すこともあるが、この場合単純形は *terminate aspect* でもあり、動作を未完了・進行中のものとして表わすのではなく、一つの事実を述べ、出来事を全体として表現するものである。このような場合単純形を *durative-terminate*、進行形を *durative-progressive* と呼ぶことがある。

b. 本来意味上 *durative* の動詞で表わす。例えば *live, stay, have, hold, see, hear, think, love* などの語である。

*He lives at Oxford.*

c. *Momentaneous* の動詞が context により *durative aspect* を表わすことがある。例えば *stop* が *durative* の *stay* と同じ意味に用いられることがある。

*When I stopped in Barcelona, Spain, for a week, I took all my meals at my hotel.—Reader's Digest.*

*Momentaneous* の動詞はしばしば瞬時的な動作の観念とその動作から生ずる事柄の状態の観念とを混えて表わすことがあるが、この場合話者の脳裡により明瞭に浮んでいるのは後者である。この事実は時の長さを表わす *adverbial adjunct* によつて明示されることがある。

A near and dear kinsman of mine has taken refuge in your country, and *hides* himself even from me. —Lytton. (主なる意味は keeps himself in hiding)

*While this was in progress*, (others) *lifted* their eyes and swept the vast expanse of country commanded by their position. —T. Hardy.

また元来 momentaneous の動詞が完了形に用いられて、ある瞬間から継続している事柄の状態を表わす場合がある。このことは完了形と共に用いられた時の長さを示す adverbial adjunct によつて明示される。

*I've given up skating these many years.*—Lytton.

*Since the 11th instant*, the Post Office authorities *have discontinued* the special arrangements.—Times.

d. Continue, go on, keep, remain などの所謂 auxiliaries of aspect は現在分詞・動名詞・不定詞と連結して durative aspect を表わす。(ある種の動詞は他の動詞の aspect を示す補助をなし、full verb というよりも一種の助動詞と見なされる場合に auxiliaries of aspect と称せられる。)

*He continued to work (or working).*

*I could go on writing* about it forever if I had only time.

*He kept working* until he was tired out.

e. 継続の概念を強調するために、しばしば副詞 on または on and on を動詞に附加したり、and を用いて動詞を反復する。

When the Elsmers were gone, Hester *sat on* alone in the drawing room.—H. Ward.

The prayers and talks (in the prayer-meeting) *went on and on*. —W. S. Cather.

When they are in trouble, in love, under stress of any kind, they *comb and comb* their hair.—W.S. Cather.

Ⅲ Iterative (or Frequentative) aspect.

これは同じ動作が反復されることを表わす *aspect* である。

この *aspect* は次のような方法によつて表現される。

a. 本来意味上 *iterative* の動詞によつて表わされる。例えば *rattle*, *glitter* などである。*Iterative* の動詞には (1) 瞬時性の反復動詞と (2) 継続性の反復動詞がある。

(1) He sometimes paused……and *panted* like a chased deer.

(2) He *struggled* against superior numbers.

——Poutsma.

b. *-le*, *-er* の接尾辞によつて語幹の動詞の反復が示される。

The fire *crackles*.

The candle *flickered* and then went out.

また *pooh-pooh*, *haw-haw* のような擬声語の重複形によつて反復が表わされることもある。

He *pooh-poohs* at everything.

c. *Iterative* の動詞が進行形に用いられると反復の進行を表現する。(その単純形との差異については p.18 c *terminate aspect* 参照)

The fire *is crackling* on the hearth.

d. *Momentaneous* の動詞が進行形に用いられるとこの *aspect* を表わす。

*Carriages were arriving*. (名詞が複数形のこととも *aspect* に関係がある)

e. *Momentaneous* の動詞が完了形に用いられて反復を表わす場合がある。

The title *has been accorded* to the head of the family since time immemorial. ——W. Irving.

f. *Momentaneous* の動詞に *iterative aspect* を与えるために *continue*, *keep* などの所謂 *auxiliaries of aspect* を添えることが出来る。

He *kept looking* back as he ran.

Gwendolen……*continued to receive* polite attention from the family at Queltcham.—G. Eliot.

g. *Momentaneous*, *durative* の別を問わず、凡ての動詞は習慣的または



規則的に繰返えされる行為を表わすように用いられると *iterative aspect* を表現する。

Harry *gets up* at seven o'clock every day.

When he lived in London, he *went* to the theatre once a week.

h. Always, perpetually のような副詞を伴った進行形は反復を表わし、性質・習慣を表示する。

He *is always smoking*.

He *is perpetually complaining*.

i. 習慣を表わす will, would, used to または be accustomed to, be in the way of のような句は、瞬時性あるいは継続性の動作の反復を表わす。

At times he *will work* for six or seven hours without stopping.

He *would often come* home tired out.

He *used to play* football before his marriage.

He *is accustomed to think* before he speaks.

*Are you in the habit of reading* in bed?

Can, could は特に be と連結した補語が続く場合に反復を表わす。

He *can be very sarcastic* (=is sometimes very sarcastic).—

Hornby.

j. ある時期を通じて繰返えされるが、習慣的・規則的・永続的とは考えられない行為を表わすために進行形が用いられることがある。

They usually have breakfast at eight o'clock, but this week, because Mr. Brown has to walk to the office instead of going by car, *they're having* breakfast at half past seven.—Hornby.

k. Iterative aspect は often, again and again のような副詞によつて表わされることが多い。

He *often laughed*.

He sang it *again and again* (or *over and over again*).

l. 同一動詞を and を用いて繰返すことによつても反復が表わされる。

*I've tried and tried, but I've not succeeded.*

Iterative aspect はしばしば他の aspect と関連を持っている。例えば *He is perpetually complaining.* においては durative aspect と、*He is always getting angry.* においては ingressive aspect と、また *I have often got the machine to running smoothly.* においては terminative aspect と関連がある。

#### IV Ingressive (or Inchoative) aspect.

これは動作または状態の開始点に注意を引く aspect であつて, inceptive aspect と呼ばれることもある。次に述べる terminative aspect と共に行為を全体としてではなく, その一局面に注意を引く aspect である。

この aspect は次のような方法で表現される。

a. 本来意味上 ingressive の動詞で表わされる。例えば *begin, commence, start* などの語である。

*We start at six tomorrow.*

b. 凡ての動詞の命令法は通例 ingressive aspect を表わす。動作をすぐ始めたり, 実行したりすることを期待するからである。

*Hand me that book.*

*Run!*

また進行形の命令文は生々とした文体において, 表現に感情の要素が入つて来る場合に多く用いられる。

*Up, be doing everywhere, the hour of crisis has verily come.—*  
Carlyle.

*Let's be going!*

しかし進行形の否定命令文は継続的の力を持っている。

*Don't be talking!*

c. *Begin, commence, start, get* などの動詞は不定詞・動名詞と結合して ingressive aspect を表わす。これらの動詞は durative の動詞に瞬時的起動

相を与える。

When we scold her, she *begins to cry* (or *begins crying*).

She *started to cry* (or *crying*).

How did they *get to know* each other—T. Hardy.

なお break out, burst out は現在分詞と結合してこの aspect を表わす。

She *burst out laughing*.

d. Be going to, be about to, be on the point of などは近接した未来において起る動作を示す。

It *is going to rain*.

I *am about to leave* for Europe.

She *is on the point of breaking down*.

e. Be, get, grow, fall, turn, become, go, come, set, start, take は形容詞・分詞・名詞・前置詞句と連結して ingressive aspect を表わす。

She *turned (became, got, grew) pale*.

He *fell asleep*.

He *went to sleep*.

He *took to drinking*.

f. 形容詞から作られた動詞もこの aspect を表わす。

The milk *soured*.

They went out the moment it *cleared*.

g. 多くの動詞句がこの aspect を表わす。

I *caught sight of* him.

He always *took possession of* the same table.—Thackeray.

h. Context もまた往々本来 durative の動詞に起動的様相を与える。

She closed the Book and *slept*.—Tennyson.

When did you and she first *know* each other?

i. Up, down, out, off, in, away などの副詞を用いてこの aspect を表わすことがある。

He stood *up*.

He sat *down*.

He dozed *off*.

j. 接頭辞 a—, 接尾辞 —en もこの aspect を表わすのに用いられることがある。

Then a heated discussion *arose*.

Her face *reddened* with anger.

k. **Ingressive** の動詞の進行形は動作の開始が展開して行くことを表わし、継続相動詞には *begin, start* などの起動相動詞の進行形を添えて同様の目的を達する。

It *is clearing*.

It *was just beginning to rain* as I awoke.

なお起動相動詞の進行形は純粹の始りを示す。またその單純形が動作を全体として、事実として表わすことは他の各相の場合と同様である。

#### V Terminative (or Egressive) aspect.

これは動作または状態の終止点あるいは到達された結果に注意を呼ぶ aspect であつて、**effective aspect** とも称せられる。

この aspect は次のような方法で表現される。

a. 本来意味上 **terminative** の動詞によつて表わされる。Die, win, stop などの語がこれである。

He *died* this morning

My watch *has stopped*.

b. Cease, stop, leave off, finish, do などの動詞と不定詞または動名詞との結合によつて動作の最終点を示される。

She *ceased to cry*.

He *stopped working*.

I *have done packing*.

c. Be, become, come, get, turn などの動詞はその後に叙述語を用いて最終の目標・状態を示す。

He wants *to be* (=become) a lawyer.

His prediction *came true*.

He *turned out to be* a great rascal.

上例の如く be は多くの起動相動詞と同様に終止点も表示する。

d. 最終の結果・目標は他動詞と目的語あるいは目的格叙述語と連結する目的語で示されることが多い。

He *has won great fame*.

He *has made himself skilful* in this kind of work.

f. 形容詞から作られた動詞でこの aspect を表わすことがある。

His hair *grayed and whitened*.

e. 副詞・接頭辞によつてこの aspect を表わすことが多い。

He put the rebellion *down*.

He passed *away* quietly in the night.

We have burned our coal all *up*.

このような場合に用いられる副詞には一般に強い具体的な力を持つているが、up に見られるように抽象的な起動や結果を表わす力が生じている。

I ate the apple *up*.

また同じ副詞が ingressive aspect にも terminative aspect にも用いられることがあるが、かかる場合には context がその何れかを決定する。

The children quieted *down*. (Ingressive).

He put the rebellion *down*. (Terminative).

なお副詞の代りに前置詞句が用いられることもある。

He shot the hat *to pieces*.

He developed *into a strong man*.

He worked himself *into a frenzy*.

f. 完了形もこの aspect を表わすことがある。

The sun *is set*; let's go home.

"Thank Heaven, he *has gone!*" murmured the old man.

g. Terminative の動詞の進行形は動作の最終点またはその到達が近づいていることを示す。また durative の動詞には cease, stop などの終止相動詞の進行形を附加して同様の目的を達する。

He *is dying*.

It *was ceasing to rain*.

Ingressive aspect および terminative aspect は momentaneous aspect と密接な関係がある。即ち点動作の概念が動作を全体として表わす概念より顕著な時に ingressive や terminative の aspect を帯びるのである。従つて起動相動詞や終止相動詞の stress の移動によつて momentaneous aspect を感ずるようなことも起きる。

He *is just getting up*. (Ingressive).

This morning I *got up* early. (Momentaneous).

また ingressive, terminate の両相を継続相の下位区分とする見方もある。Poutsma は前述のように継続相を四種に分類し indefinitely durative (例. live), ingressively durative (例. arise), terminatively durative (例. hatch eggs), continuatively durative (例. outlive) とした。上例の arise は Then the moon *arose*. の如く、動作の開始点後もある状態が継続し、hatch eggs は動作の最終点前にある状態が継続しているので、それぞれ durative の一種と見ているわけである。

## ( 2 )

以上において英語の aspect について述べて来たが、このような aspect は文法範疇として認められるものであろうか。Curme や Deutschbein のように意味に重点を置いて文法現象を解釈する立場の学者がこれを一個の範疇として独立させるのは当然であるが、一方純粹に形態的の文法の立場からすれば aspect はこれを文法範疇と認めるに足る表現形式を備えているか否かというこ

とが問題になる。従つてこの見地から前述の様相表現法の主なものを検討する必要がある。まず、動詞本来の意味が aspect を表わす、例えば arrive が瞬時相を、stay が継続相を、pant が反復相を表わすというのは辞書的なことに過ぎず、context によつて aspect が窺われるというのも勿論意味に関することである。副詞の併用による aspect の表現も語義の modification の問題である。接頭辞・接尾辞の附加によつて aspect を表わすことは造語法に関することであるから文法上の問題であるが、例えば sparkle, glitter の接尾辞 -le, -er のように、これらの多くは living suffix ではないから、aspect はむしろ特別の動詞によつて示めされているというべきである。また redden や sicken の -en は起動相を表わす living suffix であるが、これは他の機能にも用いられるので aspect を示すのはやはり動詞の語義あるいは context である。語の反復、例えば pooh-pooh などは反復相を表わす一手段と考えられるが、文法的重要性を持つには余りに臨時的である。Begin, stop, keep などの所謂 auxiliaries of aspect による aspect の表現もこれらの語が意味内容の上から aspect の表現に寄与しているに過ぎない。またこれらの語を助動詞と呼ぶことが適當であるか否かということには大きな疑問がある。なお will が不定詞と連結して反復相を表わすことは文法形式の問題になり得るが、これも語義の問題として取扱われる程度である。このように見て来ると、結局文法形態の問題として取上げる重要性を持つているのは「have+過去分詞」と「be+現在分詞」の二つだけになる。

「have+過去分詞」の形は一般に tense の表現と考えられているが、これを aspect の表現と見ることが出来る。即ち *I have written my composition. I have lost my watch. I have known him from a child.* などをそれぞれの意味に従つて perfective aspect, resultative aspect, continuative aspect と呼び、要するに現在の aspect を表わすのがこの形の最も顕著な用法であると考えることが可能である。しかしながら tense の立場からこれを眺めると、これらは何れも過去の出来事を現在の関連において述べているものである。換言すれば現在を過去の出来事の結果・影響として表わし

ているものであるから、この形を *tense* と考え、その中において *aspect* を共に論ずることも不当ではない。これに反し「*be*+現在分詞」の形は殆ど純粹に *aspect* を表わす文法形式として確立しており、文法家もこれを *aspect* の表現形式と認めることに傾いているようである。

さて以上検討したように *aspect* の表現様式として形態を備えているものは「*be*+現在分詞」の形のみであり、更に加えれば「*have*+過去分詞」の構造であるということは形態主義の見地から *aspect* を文法範疇と認めるべきか否かという問題に直接の関係がある。即ちこの両形をもつて *aspect* が文法範疇として成立するという主張も出来るし、一方「*have*+過去分詞」を *tense form* とし、「*be*+現在分詞」はそれ以外に発達した *aspect* の表現形式がなく、これに対する単純形は *tense* であるから、この *periphrastic form* も *tense* の中で論ずる方が便利であるという意見も可能である。この後者の行き方からすれば *aspect* を文法範疇として認める必要がなくなるわけである。元来印欧語の初期において動詞の *tense* という文法形式がなく、完了・未完了などの *aspect* が表現されており後者から *tense* の組織が発達して来たものと信じられている。この歴史的課程から見れば *tense* と *aspect* とのこのような混交的取扱いも自然の道といわなければならない。また欧米の学界においては少なくとも四十数年前から *aspect* の問題が論じられているにもかかわらず、我が国では比較的これが顧みられなかつた理論的根拠も以上のような点にあるのであろう。

しかしながら *aspect* を認めて文法現象を考察する方が少なくとも論理的に語法を研究する上において便利であることは否定出来るものではない。形態主義に立脚しても前述のように「*have*+過去分詞」「*be*+現在分詞」の形を *aspect* と呼んでもよいわけであるが、それだけでは *tense* として論ずる場合と大差がないように思われる。これを一段と包括的な組織とすることが出来ないものであろうか。形態主義文法の第一人者である Jespersen の *aspect* に関する見界は却つてこの点について文法を広義に解釈することを示唆しているように考えられる。彼は従来 *aspect* の分類や定義の区々不整なのを欠点とし、これ



に関する諸現象を次のように別個の項目に分類している。

(1) Aorist と imperfect の tempo の区別。

Jespersen はこの二つの tense の区別は実際は tempo の差別であつて、imperfect は *lento* で aorist は *allegro* である、あるいはおそらく *ritardando* と *accelerando* というべきだとしている。

(2) Conclusive verb と non-conclusive verb の区別。

Conclusive verb は瞬間的動作または究極の目的を暗示する動作を表わす動詞 (catch, surprise, awake, kill, make, bring about, construct, etc.) で、non-conclusive verb は感情・心的状態など完結を目的としないで始められる行為を表わす動詞 (love, hate, see, hear, etc.) である。

(3) 継続的あるいは永続的なものと点的あるいは一時的なものとの区別。

この区別を示すのが英語の単純形と進行形の機能の一つである。

(4) 完了と未完了の区別。

後者を示すのが英語の進行形の機能の一つである。例。He was writing a letter. Cf. He wrote a letter.

(5) 一度しか起きないものと反復されるかあるいは習慣的なものとの区別。

接尾辞 -er -le で終る英語の動詞がここに属する。

(6) 状態と変化の区別。

Have と get, be と become のようにこれに相当する対をなす動詞がある。また形容詞から作られた動詞は変化 (becoming) を表わす (ripen, slow (down), etc.)。同じように作られた他動詞も変化を含意し causative である (flatten, weaken, etc.)。その他変化を表わす方法に fall asleep, go to sleep, get to know, begin to look / cease, stop などがある。

(7) 結果を含意するか否かの区別。

Jespersen は上記の分類法を提唱し、スラヴ語以外の国語を取扱う場合においては、perfective, imperfective の術語を廃した方がよいと考え、動詞の表現の意味を吟味し、それが動詞自体によるものであるか、接頭辞・接尾辞によるものであるか、tense によるものであるか、context によるものであるかを

検討する方がよいといっている。Jespersen の上記の分類法は一見して明瞭な如く、従来意味に重点を置く文法学者が認めて来た aspect に密接な関係を有するもので aspect として取扱うことが必ずしも不可能なものではなく、また彼自身が動詞の表現の意味からその表示法を検討することを適当と考えているのであるから、このことに関する限り、その態度は Curme や Deutschbein とさまで異なるものでないように思われる。従つてむしろ aspect の体系の完成に向つて努力する方がより適切なのではないだろうか。

Curme は英語の tense は aspect に従属し、terminate, progressive の両 aspect の各六種の tense は aspect の時間関係を示しているといっているが、これによつても aspect の重要性が認識される。論理的にして完全な様相体系の確立は他日に俟たなければならないが、今日の英文法の組織が純理論的には色々な矛盾を含んでいる段階において、aspect を文法範疇と認め数種に分類することも不当とはいえないであろう。要するに英語語法の真の姿を把握するためには tense と aspect の両角度から別箇に観察することが肝要である。従来も aspect の側から色々貴重な研究がなされて来たが将来より完全な様相組織の確立が要望されるのであつて、筆者も研究を進めてみたいと考えている。

以上の論述は下記の書物に負うところが多大であるが、内容の不備について御叱正を頂ければ幸甚である。最後に御指導を頂いた木曾栄作教授と示唆を与えて下さった清水春雄教授に深甚なる謝意を表する次第である。

### 参 考 書 目

[ ] 内は本稿に使用した略号

- Curme, G. O. Parts of Speech and Accidence. Boston (Heath). 1935. [Accidence]  
 " " Syntax. Boston (Heath). 1931.  
 " " English Grammar. New York (Barnes & Noble). 1947.  
 " " Some Characteristic Features of Aspect in English. (英語学研究 才三輯) 富山房 1933.  
 Deutschbein, M. System der neuenglischen Syntax. Leipzig (Quell & Meyer).

1951. [Syntax]
- Goedsche, C. R. *The Terminate Aspect of the Expanded Form : Its development and Its Relation to the Gerund.* (英語学研究 才三輯) 富山房 1933.
- Hornby, A.S. *A Guide to Patterns and Usage in English.* London (Oxford University Press). 1954.
- 市川三喜編 英語学辞典 研究社 1949.
- 市川三喜・高津春繁共編 世界言語概説 上巻 研究社 1952.
- Jespersen, O. *The Philosophy of Grammar.* London (Allen & Unwin). 1924.
- "    " *Essentials of English Grammar.* London (Allen & Unwin). 1933.
- 木曾栄作 英語時制の研究 新世紀社 1946.
- Kruisinga, E. *A Handbook of Present-day English. Part II.* Utrecht (Kemink & Zoon). 1922. Groningen (Noordhoff). 1931. [Handbook]
- Laan, J. van der. 動詞進行形の研究 (斎藤静訳) 篠崎書林 1953.
- 中島文雄 文法の原理 研究社 1949.
- "    " 英文法辞典 河出書房 1955.
- 太田 朗 完了形・進行形 (英文法シリーズ) 研究社 1954.
- 大塚高信 英文法論考 研究社 1944.
- "    " 英文法新講 吾妻書房 1951.
- "    " 英文法の知識 三省堂 1952.
- Poutsma, H. *A Grammar of Late Modern English. Part II.* Groningen (Noordhoff). 1926. [Grammar]
- 斎藤 静 英文法概論 白桃書房 1948.
- Sweet, H. *A New English Grammar.* 2 vols. Oxford (Clarendon Press). 1892—98.